

入園をお考えのみなさまへ

この手紙は、平塚幼稚園のことを
1人でも多くの方に知っていただきたい
という思いから在園児の父母で作りました。
ご一読くだされば幸いです。 平塚幼稚園 保護者会

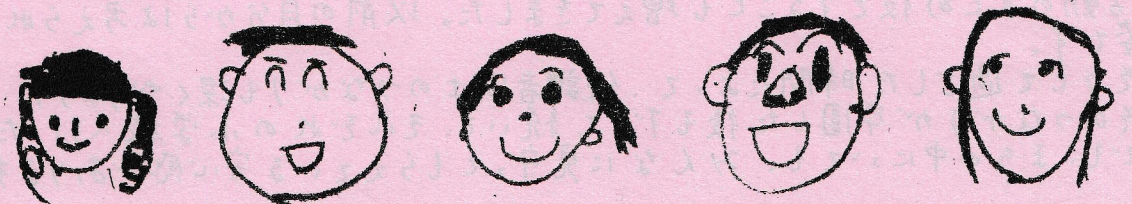


長女の幼稚園を探している時に偶然見つけた平塚幼稚園が気になって8年前のオープンスクールに参加しました。大きなクスノキと温かみのある木造の園舎に吸い込まれるように長女がキラキラした目で走り回って遊んでる姿は今でも覚えています。その姿をみて入園を希望しました。入園してから3ヵ月ほど経った7月には、もうお泊まり保育がありました。長女は「うん。みんなと先生と泊まる」と言ったり「やっばり、ママと泊まる」と言ってみたりと心が揺れる日がありました。早生まれでまだ体も小さく、夜はずっと私と一緒に寝ていた長女。「眠れるかな、大泣きしないかな」と心配で送り出す私の方がソワソワしていました。それが伝わったのか長女の顔も不安そうで、園に着いてからも何度も私の顔を見たり近くをウロウロ…。内心はきっとドキドキしていたのかなと思います。教室に入るといつも遊んでいるお友達が長女に手を振りながら声をかけてくれて先生の姿も見え「ほっとした」顔をしていました。子ども同士の繋がりが心を支えてくれてるんだなと実感した出来事でした。次の日の朝お迎えに行った時「楽しかったー。お泊まりできたよ。」と誇らしげに言っていたのを覚えています。平塚幼稚園には、送迎バス、給食など、親にとっては便利なものは殆どないけれど、それ以上に子どもたちの人生の礎となる希少な経験と個性豊かな成長が期待できるかけがえのない環境があると実感しています。田植え・稲刈り遠足、秋川合宿…など自然を通して得られるたくましさや優しさ。自ら考え、意思を表明し行動する主体性。困りごとには先生も交え、子ども達どうしで話し合い、考えながら解決していく姿を見て友達と支え合うことの大切さを肌で体感できる充実した3年間だったと思います。親としての気づきや学びもとても多く、何事にも変化がたい一生大切にしたいものに出会える場所だと思っています。

『他に類を見ない唯一無二の園』平塚幼稚園
次女が今年の4月入園しました。長女と同じキラキラした目で走り回って虫探しをしています。 <年少 〇〇〇>

広い園庭の中央に立つ大きなクスノキと、その下でのびのびと遊ぶ子ども達の姿に心を惹かれて、この幼稚園に強く魅力を感じました。
長男(高一)、次男(小四)、長女(年中)と三人の子どもたちが通っています。
このクスノキは、雨には大きな傘として、真夏には木陰を作って子ども達の活動を見守っています。そして風の強い日に落ちたたくさん葉は、朝早くから先生、保護者の方々が掃き掃除をしている温かい幼稚園です。今年、園の畑づくりを手伝った際、落ち葉が腐葉土として畑に活用されていることを知りました。その夜「クスノキの葉っぱはどこに行くとしよう？」と三兄弟に聞くと、次男は「ニワトリのエサ？」と首をかしげ「大きな箱でどこに運んだ？」とヒントを出すと「畑だ！腐葉土ねー。」と笑顔で思い出してくれました。

平塚幼稚園は、「食育」や「リサイクル」という言葉を知る前に、その意味を体験を通して教えてくれる場所です。日々の生活の中で自然に触れながら、子ども達も自分の目で見て手で触れて物事の仕組みを学んでいく。このことの喜びを親子共々感じています。 <年中 〇〇〇 父>

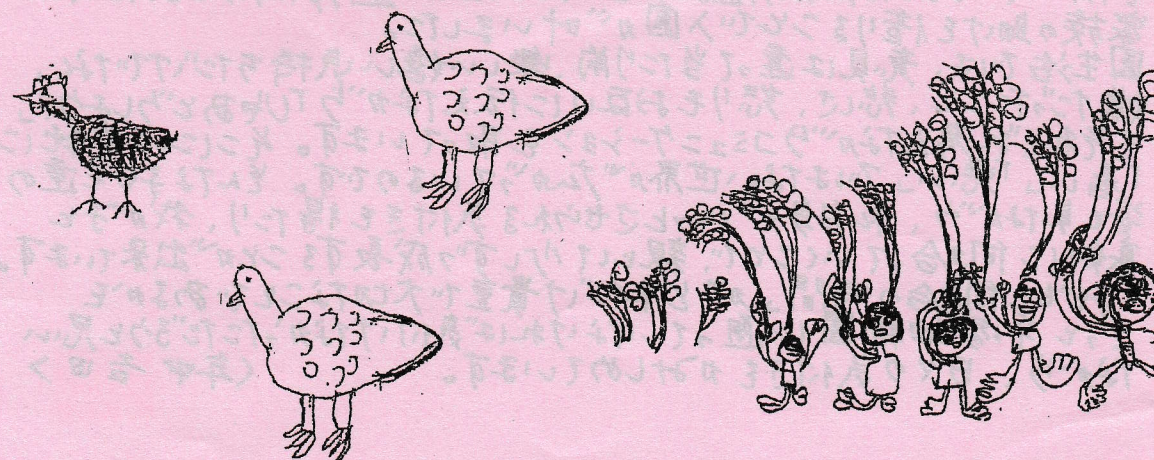


共働きのため、息子は0歳から保育園に通い、親子共々忙しい日々を送っていました。身体面・発達面などをとっても心配事は尽きず、それでも日々はまたたく間に過ぎていきます。目利きが早く好奇心旺盛な息子には、息子らしくも失くさず、のびのびと過ごしてほしいというのが母としての思いでした。平塚幼稚園のオープンスクールに参加し、様々な経験が出来ることや、年長さんが下の学年の子達を支える育ち合いを知り、「いいじゃない！」と思いました。フルタイムで働いていることに加え、片道30分という距離に迷う気持ちもありましたが、家族の助けを借りることを入園が叶いました。園生活では、意見は違っても当たり前に、楽しい嬉しい気持ちだけでなく、嫌だったこと、悲しい、怒りもお互いに伝えながら「じゃあどうしよう？」とそれぞれ考えながらコミュニケーションを取っています。そこには単純に「悪い」「悪い」ではない世界が広がっているのです。そんな子ども達の姿を見ながら、私自身がハッとさせられる気づきを得たり、我が子と真剣に向き合っていくことで、親として少しずつ成長することが出来ています。「子どもと向き合う時間」がどれほど貴重で大切なことであるかを、きっと平塚幼稚園に通っていただければ気付いていただろうと思います。 <年中 〇〇〇 父>

平塚幼稚園での生活は、子どもは子どもたちの間で育ち合う3年間。じつは、大人も育ち合う3年間でもあります。平塚幼稚園は保護者会活動がさかんな園で、サークル活動はじめ、各学年、ときには04も交えての活動があり、その場に集まった人たちと意思を伝え合いながら一つひとつの活動を作りあげていきます。どの活動でも、子どものことを見つめ、自分の子育てをふりかえる、そうして子どもへの接し方が変わる。そういった活動がたくさんあります。たとえば、私がかかわっている会で学習会という活動では、自分の子の困った行動や悩みなどについて話しあいます。他学年の親も交えて話をすることで自分にはない視点をもったり、客観的に子どもの様子をとらえて、どう声かけしていくことが子どもにとってよいのかを考えて実践していきます。こうした保護者会活動に参加してきたことで、確実に自分自身の成長を感じています。もともと大勢の前で話すのは大の苦手だし、気のあった仲間といればいいと思っている人間でした。声をかけられたことで、0歳の未就園児がいながらもちょっとした活動をしたのが始まりで、少しでも自分にできることを思いながら色々な活動に関わっていくたびにできることが増えていき、今では何らかの活動のまとめ役をすることも増えてきました。以前の自分からは考えられない姿です。

そうして過ごした時間によって、保護者同士のつながりも深くなります。そのつながりが卒園した後もずっと続いて、それぞれの小学校へ行った先でも、まちの中にも、みんなに見守ってもらっている安心感があります。

この園で学んだのは、「つながる」ということの大事さ。自然も人も、何もかもつながっていることで生かされている、そのことを感じられる3年間だと思います。〈年長 〇〇〇〉



私はひとりの娘を持つ母です。娘が生まれてから、夫も私も初めての子育てでお互いにわからないことだらけで、自分の育児に自信が持てず不安な毎日を送っていました。

娘は話しかけても反応しない姿や、会話のキャッチボールが上手くいかない姿があって、年齢的に仕方ないのかなと入園前は半ばあきらめていました。私自身もともと話すことが苦手だったこともあり、入園するまでは人と話すことで悩みが解決すると思っていませんでした。

ある時、娘を見守ってくれていた他のお母さんから「片付けの時に声をかけても逃げ出してしまったけれど、どう声をかけたらよかったのかな?」と話しかけられたことがありました。確かに家でもそういう姿があるなと思い、その言葉をきっかけに娘の行動をよく見てみると、やっていた遊びを急に止めようとするとうるさく起すことが多い一方で、自分のタイミングで遊びを止めた時は次の行動がスムーズに出来ることに気がつきました。娘は自分で納得して遊びを止めないと気持ちを切り替えることができなかったのです。そのことに気がついてから、本人の思いを引き出す声かけを私自身が深く考えるようになりました。その後、私が片付けて欲しいと思った時に「遊びをいつまでやる?」など、本人の意志を確認するように声かけを変えてみました。すると、娘は「あと1回やったら終わりにする」と区切る姿や片付けができて喜ぶ姿が出てくるようになりました。後日、他のお母さんから「声かけしたら片付けをしてくれたよ」と教えてもらいました。このように平塚幼稚園では、子どもたちのことを話し考える場がたくさんあります。

他のお母さんとの交流をしていく中で、人に話をしても良いんだと気づきました。母としても子としても、大いに成長できていると感じています。

〈年長 〇〇〇〉